（別紙1）

自己評価及び外部評価　結果

平成 22年　2月　27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2796000038		
法人名	医療法人　真芳会		
事業所名	いきいきグループホーム		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	認知症対応型共同生活介護		
自己評価作成日	平成22年2月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	tp://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	（別添情報提供票のとおり）

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　評価機関　あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成　22年　2月　19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の方が安心していきいきとした生活をおくることができるように心がけている。個別性を重視し出来る限り意思の尊重を図りながら援助している。また医療依存度が高い入居者の方が多い為医療サイドと密な連携をとり健康状態が維持できるように対応している。ケアの基本姿勢としては、まず出来ることは本人にやっていただき出来ないところを援助している。少しでも長く個々の生活レベルが維持できるようにスタッフや家族とが協力して行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

いきいきグループホームは透析患者や医療要求度の高い利用者でも、いきいきと尊厳を持って暮らせるよう支援している。医療が必要な時には24時間体制で医師の診察が受けられ、介護職員も必要な医学知識の研修を定期的に受けている。毎月1回全職員参加の勉強会を開催し、医療と福祉の連携に向けて、職員の質の向上にも積極的に取り組んでいる。利用者に対する言葉づかい、挨拶、日常動作など接遇マナーに関する講習会も全職員が受講している。排泄の自立支援については一人ひとりの能力や排泄パターンを排泄チェック表を用いて把握し安易にパットやおむつを使用することを避け、可能な限りトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	医療法人を母体とするグループ事業所である事から「医療と介護の融合」を図った理念を構築。定期的なグループ法人での代表者会議や全職員を対象とした勉強会により理念に基づいた議論を行い実現にとり組んでいる。	「わたしたちは人権尊重の精神を基盤に自らの知性を高めながら、地域に根差した医療・福祉の融合と相互理解に努め高齢者の自由と権利を守りながら、地域資源との協働を図れるよう精進します」を理念に、その実践に取り組んでいる。また、入口近くに理念を掲示し周知を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会への入会。自治会活動へ参加し定期的に公園や近隣の清掃に全職員を後退に参加させ地元の方々との交流を図っている	町会に加入し、地域との交流を図っている。また、地域推進会議のメンバーや介護保険相談員と交流するなかで、地域から事業所へのボランティアの受け入れにつなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護相談窓口や出前講座の依頼を受ける姿勢を自治会にも伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は事業所が抱える問題や不足している部分として素直にとらえ、今後も認知症の理解を深めていくと共に地域に育てて頂く気持ちで更なる認知症ケアの質の向上に向け取り組んでいる	運営推進会議を２ヶ月に１回開催し、記録を残している。会議では事業所からの報告と共に参加者からの質問、意見、要望を聴取するなど、双方向的な会議となっている。参加者は事業所関係者、利用者、地域の関係者、地域包括支援センターの職員で構成され、家族の方にも会議への出席を呼びかけている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を蜜に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターへの同施設の活動報告や案内、市の担当者への認知症対応型生活介護としての在り方や個々のご利用者の相談を行いながら連携を図っている	市町村担当者とは活動報告や案内など積極的な情報提供を行い、相互の連携を図り、事業所の運営にも反映している。さらに、利用者の相談や困難事例などについても相談を行いながら取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	厚労省より出された身体拘束ゼロに向けての指針や方針は各フロアの職員の目の届く場所に資料を保管している。玄関の施錠は解放する事が出来ていない。徘徊されるご利用者の安全確保の上からご家族の開放に反対の意見が多い。開封実現には時間を要すると思われる。	定例的な全体会議で職員に対しては身体拘束しないケアについて理解する為の取り組みを行っているが、運営上外部からの侵入者を排除する為、建物の３階にあるグループホームの入り口のエレベーターは暗証番号でロックしている。	徘徊する利用者も少なく、安定しておられる様子なので、身体拘束委員会などで検討し、今後の工夫を期待する。

7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	現在、虐待に関しては具体的な取り組みはできていないが、日々の業務の中で行うことが虐待行為につながる可能性があることを念頭に置くように努めている。今後は教育も含めで取り組むように努める		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度は管理者は理解し両制度の利用経緯もある。しかし一般職員への教育は不十分で今後は市町村や関連団体が実施する研修に参加させ自施設での研修にも取り入れていきたいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談窓口での対応は管理者としている。一本化することで説明内容が統一される。従って、利用者や家族に混乱が生じないように配慮している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談連絡先は各フロアーの出入り口に掲示し意見箱を設置し意見の収集に努めている。各フロアーに相談担当者を置き利用者や家族の意見・不満、苦情等の対応を行っている。管理者へは随時報告し速やかな対応を心掛けている。職員へは会議や申し送りで内容・対応を報告している。また、介護保険相談員の訪問による相談受付も行っている	利用者・家族等からの意見、不満、苦情等はアンケートをとるなど、積極的に聴取し、事業所の運営に反映している。介護保険相談員も受け入れている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	定期的な全体会議を行っている。日常から管理者と職員との信頼関係が重要と考え、意見の言いやすい環境作りや全員参加型の会議の実現を目指している	管理者は毎月1回は職員と話し合う機会を設けて、コミュニケーションを図っている。利用者と職員の馴染みの関係に配慮した勤務体制や異動にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入している。法人本部が積極的に職員同士のコミュニケーション不足解消のために交流の場を設けている。職員アンケートを通じて職員への質問や職場環境改善対策に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部で行う勉強会の参加は代表者に絞らず一般職員への参加も求めている。内容についての意見も汲み取る姿勢を通達し外部研修参加へも積極的に支援している。		

14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	区毎に開催しているグループホーム連絡会や地域で行っている研修や勉強会の参加の通知を職員に通達しスキルの向上支援を行っている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの面談を数回行い、見学説明に時間をかけ組織が目指す理念や利用者の考える希望の生活の場をどの様に提供できるかを話あっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	上記と同じく、話し合う時間を出来るだけ長く取るように配慮しているが、利用者とその家族の意向が違う場合には基本的に利用者の意思を尊重すると説明している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設に入居希望される方は他施設と違い透析を始めとした医療依存度の高い方の入居がほとんどである。その他栄養管理等医療スタッフと連携をとりながらケア計画に同意を得ていただけるよう配慮している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な関係ではなく、利用者自身が力強く生活されており、利用者主体で介護対象者ではないと考えている。利用者から学ぶ経験や知識に尊敬の念をもち敬う気持ちで互いに支え合い共にどの様な事でも話合いながら信頼関係を築く努力をしている		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は利用者にとってかけがえのない存在である。家族の存在を我々が支援の代行と考えてはならない。気楽に来所していただけるように声掛けをしたり、職員には挨拶の徹底を伝え、家族が職員に話かけやすい対応ができるよう教育している		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら外出を通してなじみの人や場との関係継続の支援に努めている。又、家族同様なじみの人（友人、知人）にも気軽に来所していただける様、職員には挨拶の徹底を伝え、利用者と語りあえる環境作りにも努めている	**利用者がこれまでに培ってこられた人間関係や社会とのつながりが継続できるように、家族の協力を得て、外来受診、散歩、散髪、外食、買い物などへの外出支援を行っている。**	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が一つの建物の中で生活しているが共同生活を考えるのではなく個々の個性を生かせる環境を提供すると当然、喧嘩やいざこざが生じる。解決策を考えるのではなく利用者同士で解決してく支援が必要を考える		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までは、死亡退所以外、契約終了のケースはない。死亡退所の家族から連絡があった場合において家族への健康面、生活面を含めた言葉かけを行い相談をうけている		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活の意向の把握に努めるには、ケア計画作成担当者だけが行う事ではなく、職員全員が考えなくてはならない事を意識つける為に、順次、職員全員にアセスメントの作成をさせることで利用者の意向をどの程度汲み取れ、その為に何が必要かを検討する機会としている	**利用者の思いや暮らし方の希望、意向を把握し、生活の中で生かすために計画作成者だけでなく、職員が分担してアセスメントを行っている。**	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用者の持つ価値観、拘り、嗜好、日課、不安など行動や言動から見える生活歴をプライバシーに配慮しながら理解するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、変化のある暮らしの中でアセスメントの内容や計画のなかでは測りきれない出来ごとが多くある。生活をマニュアル化し把握するのではなく日々、利用者の行動や会話に目や耳をむける様、取り組んでいる		

26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療機関、管理栄養士、訪問歯科、訪問マッサージ等関係機関からの報告書を参考にケア計画を見直す際、各機関に意見を求め利用者その家族の意向を重視しながら計画書に反映している	利用者・家族から希望や意向を聞き取り、その人らしく暮らし続けるために、必要な支援を盛り込んだ個別具体的な介護計画を作成している。しかし、昨年には管理者や計画作成者の交替があり、介護計画書の見直しを行っていない。	介護計画は定期的ならびに利用者の状態の変化に応じて、担当者会議を開き、アセスメントを活用した介護計画の見直しや、家族等に参加の呼びかけを行うことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の発言をケース記録にそのまま記載するように求めたり他者との関係の出来ごとなども客観視した記録を記載するように伝えている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の申し出をどんな出来ごとでも報告や記録に記載するように努めている、他機関から受けるサービス提供による視点の分散により観察や情報の幅を広げている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防に関しては、災害時には地域非難場所に使用してほしいと伝えている。区図書館では施設名の貸出カードを申請し利用者の好みに応じた書物を設置できるようにしている。民生委員を通して地域ボランティアへのあいさつ、来所依頼を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同グループ内の診療所のほか、利用者や家族が希望される場合は他の医療機関に受診されている方もある。病状にあわせて適切な医療機関への受診に配慮している	１階に診療所があり、利用者の日常的な健康管理を行っている。また、利用者や家族が希望すれば他の医療機関を受診できるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	24時間医療連携を整備している。同建物内に診療所があり、医師、看護師と常時連携が取れる体制を整えている		

32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	診療所が他の医療機関との連携を図り、調整を可能としている。連携病院以外にある堺市の医療相談員等の窓口担当者は把握できている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内での終末期においての対応及び看取り関する指針を書面化し職員への周知を図る。併設の診療所と連携した取り組みが可能。H21年12月家族の理解と納得が得られた看取りケアを行うことができた	ターミナルケアにおいての対応及び看取りに関する指針などを文章化し、職員への周知を図っている。昨年12月に家族と対応方針の話し合いを持ちながら、看取りケアを行った経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の連絡や報告先をマニュアル化し各フロアーに設置していることにより実践出来ている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の下、施設内消防訓練は行っている。H21年8月の近隣火災時には消防署の指示に従い利用者全員を避難させることが出来た	消防署への緊急通報システムを設置し、使用マニュアルを掲示している。消防署指導の下、定期的に施設内消防訓練を行っている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩対して敬意を持った態度や言葉遣いを指導している、親しみやすい言葉かけの違いを職員に教育している。法人主催の接遇マナー研修に参加し現場にも活かしている。個人情報の取り扱いについても厳重に注意し配慮を怠らない努力をしている	毎月２回全職員に、利用者に対する言葉づかい、挨拶、日常動作などの接遇マナーの研修を行っている。個人情報も第三者の目に触れないよう書棚に保管・管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 　日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己実現が可能になる様に職員と利用者の関わりを維持していく為、些細な言動も見落とさず支援出来る様努めている		

38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で動くのではなく日々の健康状態を観察しながら本人の気持ちに触れる支援を利用者主体で考えいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意思を尊重し身だしなみを強要する支援は行っていないが、普段より身だしなみに気を使われている利用者には家族からの情報と協力の下好みに応じた衣類を着用している。又、外出の機会を減らさない為に訪問理容を利用せず外部の理容室へ行くよう家族と連絡しながら行っている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事管理が必要な利用者が多いため管理栄養士の指導の下、外注での食事提供を行っている。偏食が強く健康面に影響を及ぼす恐れがある場合には医療、栄養士の指導の下家族の了承を得て利用者の好みの食事を提供している	食事や水分量の管理を必要とする利用者が多く、管理栄養士指導の下、外注（クックチル方式）による食事となっている。イベント食には洋食バイキングや中華バイキング、駅弁など食事形態に変化を持たせて楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日水分量1000mlを目安とし好みに応じた飲み物を提供したり利用者の状態に応じた食事形態で提供している。食事量が少なく低栄養が考えられる場合には医療および栄養士に報告し高カロリー飲料や高カロリーゼリーを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科衛生士や訪問歯科治療を全員に行い個別に報告書を頂くと共に口腔ケアの指導と誤嚥予防のための口腔マッサージや口腔体操にも取り組んでいる		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の失敗により簡単にﾊﾟｯﾄﾞやおむつを使用することは身体拘束に値すると説明している。個々の排泄パターンを把握し自尊心を傷つけないよう排泄を促す声かけをしたりADL状況により下衣の着脱に時間を要し失敗の恐れのある利用者には介助を行う。夜間Ｐ－トイレを居室に設置する事で失敗予防に努めている	一人ひとりの能力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、安易にパットやおむつを使用しないよう可能な限り、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

44		○便秘の予防と対応 　便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸蠕動を活発にする食品の提供と共に冷え予防に入浴日以外に足湯を実施している。自力排便や便秘傾向のある方へは医療へ報告し薬剤による調整を図っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 　一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週２回実施、二人介助を要する利用者が過半数を占めており職員の都合で決めてしまっているところもあるが利用者の状況に合わせた対応をしている	入浴は週２回実施しているが、２人介助を要する利用者が大半を占めており、一部異性介助となっている。夜間入浴の希望には、利用者の状況に合わせた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 　一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを出来るだけ崩さないように配慮しながら昼食後にベッド上で休息して頂いている（超高齢者や症時間座位が困難な利用者）安楽な姿勢を保つ為に体位変換を実施。季節に応じた寝具の選択、冷暖房機使用による室温調整を湿度対策を行っている		
47		○服薬支援 　一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書を保管している。提携している薬局に薬剤管理を依頼している。薬剤の変更等があった場合や注意しなければならない情報は医療サイドから指示があるため職員は把握が出来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 　張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者主体による読み聞かせ、ラジオ体操、トランプ、パズル、カラオケ等レクレーションを実施。趣味や意向を引き出せるよう努めている。また年間計画に昼食バイキング、手作りランチ、手作りおやつ、特別食（花見弁当、鍋料理、駅弁等）等楽しみの一環として実施している		
49	18	○日常的な外出支援 　一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体調の良い日や気候が良い日等、外出を心掛ける様配慮している	事業所の近くに公園があり、天候のよい日は散歩・買い物・外食・喫茶店に行くなどの外出支援を行っている。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は利用者が入居時に家族を含めて取り扱いを決定している。入居者の中にはご自身で管理している方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の目の届く場所に電話を設置している為利用者の希望あった際は家族へ連絡したり、家族からの電話に利用者が対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたポスターや飾りなどスタッフで工夫している	居間は南に面して陽射しがよく入る明るい場所である。居間にカラオケの設備があり、利用者が楽しめるよう設置している。壁面には利用者が手づくりのお雛様の貼り絵など季節感のある作品を掲示している。	事業所に入る玄関は２ヶ所あるが、診療所と同じ入口からエレベーターで３階に上がり訪問するようになっているため、入口が分かりにくい。入口に分かりやすい看板をつけるなど工夫が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファ等を設置し自由に場所を変えることが出来るように工夫している。利用者の移動の際の動線に注意している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち込みの内容の制限はなく新しいものを持ち込むのではなく出来るだけ使い慣れた物をそばに置く意味を家族に説明している	居室はベッド、ソファ、テレビ、整理タンスと利用者が使い慣れた馴染みの家具が置かれていて、その人らしい居室作りをしている。窓辺に観葉植物、壁に手作りの鬼の面が掲示されている。また、タンスの上には趣味の人形が飾られ、携帯電話、仏壇などに囲まれて落ち着いた生活ができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	医療スタッフと連携しながら身体機能の低下を予防し情報交換もできている。利用者が自立した生活が少しでも長く継続できる工夫をしている		

V　アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の３分の２くらいの ③利用者の３分の１くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	■ □ □ □	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	■ □ □ □	①ほぼ全ての家族と ②家族の３分の２くらいと ③家族の３分の１くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	□ □ ■ □	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	□ ■ □ □	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている	□ ■ □ □	①ほぼ全ての職員が ②職員の３分の２くらいが ③職員の３分の１くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	□ ■ □ □	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の３分の２くらいが ③利用者の３分の１くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	□ ■ □ □	①ほぼ全ての家族が ②家族の３分の２くらいが ③家族の３分の１くらいが ④ほとんどできていない